

Japan Dialog

日本の新しい未来を創る
対話の場

Presented by ミラック

震災を超えて、新しい日本を創る

2011年3月11日、東北沖に発生したマグニチュード9.0の大地震。そして、それに続く津波、原発、電力不足。今、日本は新しい社会のあり方への岐路にたっています。震災からの復興、エネルギーのあり方、都内の生活のあり方が問われています。

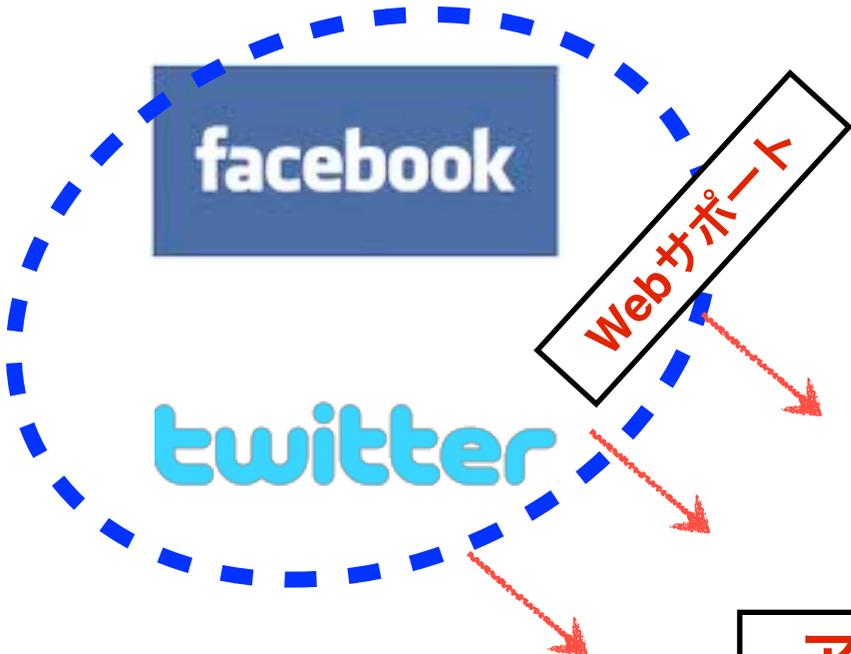
私たちは、どのような新しい日本の未来を創っていくことができるのでしょうか。

3.11以前に戻ることが復興とは限りません、また、様々な状況から3.11以前に戻ることにはできないでしょう。変化は大きな鐘の音とともに始まりました。3.12以降に始まる新しい日本の未来。それは、誰かが創るのではなく、1人1人の考えとアイディア、行動が生み出します。

Japan Dialog。

新しい日本の未来を創るをテーマに対話の場を始めたいと思います。

未来を創る



アクション

アクション

アクション

アクションを生み出す
対話の場



未来の可能性を話す
対話の場

2つの対話の場

「未来の可能性を話す対話の場」と「アクションを生み出す対話の場」



対話には創造の力があります。ワールド・カフェの創造性、OSTの自己組織化、プロアクションカフェの収斂の力、これらのソーシャルテクノロジーの力を活かして新しい可能性を自ら考え、話し合い、そしてアイデアや構想を重ね合わせ、アクションの種へと昇華します。*ワールド・カフェ等はそれぞれ対話の場づくりの手法の名前です

未来の可能性を話す対話の場

1：既にある未来をゲストの取り組みから知る

社会課題に挑戦してきたゲストから、アクションの源の「想い」や「課題意識」、「取り組んできたこと」についてストーリーテリングを行います。サステナビリティ、社会起業、デザイン、IT・テクノロジー、など分野を超えたゲストから、既に取り組んでいる活動や源となる課題意識を元に知識とアイデアを得ます。

2：自分事として話し合う

ゲストからの話を聞いて終わるのではなく、得た知識とアイデアを元にさらに自分事として話し合いを行います。話し合いは、対話のプログラムとファシリテーターの元で行われ、初めて出会った人たちが安心と安全を感じながら、創造的な話し合いを行うことができます。

3：知識とアイデアを得ること、意識の醸成

「未来の可能性を話す対話の場」の目的は、先行して取り組みを行っているゲストから知識とアイデアを得ることと、さらに話し合いを通して社会に対する高い意識を醸成することです。地震直後に高まった社会に対する意識を日常の忙しさに埋没させず、また、創造的で健全な形で高めていくことを目的としています。具体的なアクションを生み出すことは、「アクションを生み出す対話の場」に引き継がれます。

アクションを生み出す対話の場

1：アクションを生み出す対話

100人を超える大人数と共に効果的な対話の場を創るためのソーシャルテクノロジー（ワールド・カフェやオープン・スペース・テクノロジーなど）を組み合わせ、多くのイベントやシンポジウムとは全く異なる”対話”的な1日の場から新たなアクションを創ります。

2：主人公は1人1人の参加者

主人公は、1人1人の参加者です。最高のアクション、高度なアクションではなく、1人1人の想いを元にそれぞれのアクションを生み出していくことを目指します。関わり方もそれぞれの関わり方があります。アクションの柱となるリーダー、それを支えるフォロワーとメンバー。こうした役割の中で1人1人がリーダーシップを発揮し、社会に主体的に関わっていくことが、新しい日本の未来につながると考えます。

3：ソーシャルアクション

生み出されるアクションは、社会の課題に主体的に関わる「ソーシャルアクション」。そのために、火種となる取り組みや想いをゲストからストーリーテリングしてもらいます。社会への働きかけとしてのアクションを生み出すことを通じて、新しい日本の未来を創っていきたいと思います。

日本の新しい未来を創る

対話の場



3.11

Japan Dialog

新しい日本の未来

Japan Dialogを支えるリソース

A ミラック／ダイアログBar

Japan Dialogの事務局はミラック／ダイアログBarと有志の自主的な運営メンバーによって支えられています。また、実施される対話の場のプログラムは、企業変革や町づくりに取り組むミラック／ダイアログBarによってデザインされます。

B 10000人を超えるネットワーク

3.11に立ち上がった「東北地震の情報」ページには、7200人を超えるメンバー（3.18時点）が参加しています。このメンバーを呼びかけ先の一つとし、また、ダイアログBarのML（2000人）を中心に様々なネットワークを通じて参加を呼びかけます。

C 他のプロジェクト／団体との連携

博報堂に事務局を置く「issue+designプロジェクト」をはじめ、様々なプロジェクト／団体と連携します。震災復興に関わる具体的な活動と連携する事で、対話と現場をつなげます。（連携するプロジェクト／団体については随時更新していきます）

企業の方へ

→ info@dialog-bar.net

Japan Dialogを広げるための協賛／協力を募集しています。

A 協賛

Japan Dialogを実施するための企業協賛を以下の通り募集します。

- ・ 合計3~10社、1口500,000~1,000,000円程度の協賛を募集します。
- ・ 協賛によって集まった基金は、Japan Dialogの運営に活用されます。
- ・ 協賛に対して、ロゴとWebサイトへのリンクの明示、招待枠の設置などを行います。

B 場所の提供

対話の場を開くために50~100名規模の場所（会議室、エントランスホール、研修会場、など）を必要としています。場所の提供をしてくださる現物協賛を募集しています。

C その他現物協賛

その他、Japan Dialogを支えてくれる現物協賛を随時募集しています。詳細はご相談ください。

個人の方へ

→ info@dialog-bar.net

Japan Dialogに参加する方法は

A 対話の場に参加する

Japan Dialogの対話の場に参加してください。参加の方法は、Facebook、ツイッター、ブログなどで紹介されます。まずは、ツイッターの@dialoguebarかブログ (<http://positivelearning.seesaa.net/>) を見てください。また、オンラインでの参加も作っていきます。

B 紹介する

Japan Dialogは生まれたばかりです。まだ誰も知りません。この企画を多くの方に伝える事から、Japan Dialogは育っていきます。ぜひ多くの方に伝えてあげてください。そして、共に未来を創りましょう。

C メンバーになる

Japan Dialogは、ミラツク（NPO法人の設立準備中／旧ダイアログBar）によって運営されます。Japan Dialogを共に創る運営メンバーを募集しています。

個人

- ・ 参加／紹介
- ・ 実施メンバー

- ・ ネットワーク
- ・ NPO/NGO
- ・ 社会起業家

**Japan
Dialog**

企業

- ・ 資金提供
- ・ 会場提供

震災復興

新しい日本

スケジュール

2011年4月スタート

■Japan Dialog

4月6日 第1回Japan Dialog 19:00~21:30

以降、場所の協賛を含めて調整中 ※協賛が増えるほど数多く行う事ができます

■アクションを生み出す対話の場

4月24日（日） 第1回ミラツク in Action 10:00~19:00

ゲスト：Bado!プロジェクト 須子さん、ブラストビート 松浦さん、issue+designプロジェクト 笥さん、巡の環（海士町）阿部さん

以降、場所の協賛を含めて調整中 ※協賛が増えるほど数多く行う事ができます

運営体制

事務局、主催 NPO法人ミラツク（設立準備中）

協賛・協力 随時募集中

連絡先

NPO法人ミラツク（設立準備中）

西村 勇也（にしむら ゆうや）

info@dialog-bar.net

@dialoguebar（ツイッター）

未来を創る